



5月保育所だより

桑折町醸芳保育所
令和5年4月28日

爽やかな風に暖かい日差し、外遊びやお散歩が楽しい季節となりました。保護者の皆様には、日頃より保育所運営にご理解・ご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。入所・進級から1か月が過ぎ、保育所や保育者にも少し慣れてきた子どもたちです。保育室・所庭での遊びや所外での散歩では、生き生きとした表情で活動しております。その様子につきましては、現在、隔日(火・木)でホームページにアップしておりますので、是非ご覧いただきたいと思っております。

さて、新型コロナウイルス感染症が世界的にパンデミックを引き起こしてから三年が経過し、ようやく収束の方向へと向かってまいりました。ご存じのように5月8日からは、感染症2類から5類に引き下げられます。そうすると、世の中の警戒感がより薄れていきそうです。しかしながら、保育所は0～2歳児の病気に対する抵抗力や免疫力の弱い子どもたちの集まりです。新型コロナウイルス感染症をはじめ、多くの感染症にまだまだ注意して生活していく必要がある子どもたちです。換気・消毒・手洗いの基本的な感染対策とともに、様々な感染症の状況を見極めながら大勢が集まる行事の制限等を今年度も継続し、子どもたちの安全・安心の確保に努めたいと思っております。保護者の皆様には、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<今月の保育の目標>

0歳児

- 生理的欲求を満たし、安心して過ごす中で、信頼関係や愛着関係を築いていく。
- 気候や体調に留意し外気に触れ、気持ちよく過ごせるようにする。

1歳児

- 欲求や要求が十分に満たされ、安心して過ごす。
- 保育者に見守られながら、好きな遊びを楽しむ。
- 春の自然に触れ、戸外で体を動かして遊ぶ心地良さを味わう。

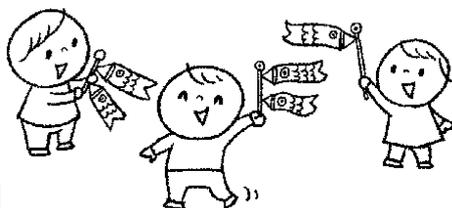
2歳児

- 保育者と触れ合ったり、遊んだりする中で安心して過ごす。
- 生活の流れが分かり、簡単な身の回りのことを保育者と一緒にしたり、自分でできることをやってみようとしたりする。
- 春の自然に触れたり、のびのびと体を動かしたりして遊ぶ楽しさを感じる。



<5月の行事予定>

- 2日(火)子どもの日集会
- 12日(金)内科検診
- 23日(火)避難訓練
- 24日(水)歯科検診
- 25日(木)誕生会



*後日、歯科検診の保健調査票を配布します。22日(月)までに提出してください。

5月の合同保育室は
ちゅうりっぷ組です。

<6月の主な予定>

- 6日 プール開き
- 9日～16日 保育参観
- 23日 避難訓練
- 29日 誕生会

< 保育所からのお知らせ・お願い >

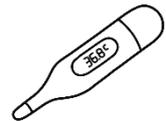
【諸連絡】

- * 保育所での行事や遊びの様子を撮った写真の注文を、ワタナベスタジオを通して年間4回行う予定です。その都度お知らせします。
- * PTA会費の集金袋を各家庭に配布しました。5月2日(火)までにお納めください。
- * 欠席や登所が遅れる場合は、給食の手配がありますので、午前9時までにご連絡ください。
- * 送迎の際、7:30～8:30の間は、東側駐車場周辺の道路は、スクールゾーンのため、進入できません。郵便局南側道路もスクールゾーンです。西側駐車場が混雑する時間帯には、第二駐車場をご利用ください。乗車の際は、必ずチャイルドシートを着用し、駐車場では、保護者が車のドアの開閉を行い、お子さんの手を離さず歩いてください。

○体調不良時の対応について○

次の①～③のような症状は、感染症に罹患している可能性があります。保育所内での感染症の流行を防ぐため、**①～③のいずれかの症状がみられる場合は、登所を控えてください。**また、重症化しないためにも、早めの受診にご協力ください。

- ① 家庭での朝の検温において、37.5度以上の発熱をしている
また、38度以上発熱した場合は、解熱後24時間は登所を控えてください。
解熱剤を服薬して平熱となっている場合も登所を控えてください。
- ② 著しい咳や鼻水が出ている
咳・鼻水を介して、ほかのお子さんに感染する場合があります。
- ③ 下痢をしている
白っぽい色の便は、感染症の疑いが高いため、特に注意してください。



< 各クラスより >

たまご組



初めての保育所、初めての担任で泣いていたお友達も、少しずつ慣れてきて、ミルクを飲んだり、離乳食を食べたりして、とても満足そうににこにこ笑顔で過ごせるようになりました。天気の良い日はテラスに出で外気浴を楽しんでいます。初めてのお遊戯室デビューもしました。広いお部屋を独り占めして、たくさん身体を動かすことができました。5月は、戸外に出て過ごす日も増やしていき、気持ちよく過ごせるようにしていきたいと思います。

【←テラスでおもちゃ遊び】

ちゅうりっぷ組

10名でスタートしたちゅうりっぷ組さん！！初めての保育所生活に不安になったり、新しい保育室や保育者に戸惑ったり、最初は泣いていた子どもたちでしたが、少しずつ新しい環境にも慣れてきたようで、かわいらしい笑顔をたくさん見せてくれるようになりました。

天気の良い日はカートに乗ってお散歩へ。さわやかな風に

【散歩の途中でうとうと・・・→】



吹かれていると気持ちよくなり、いつの間にかうとうとと・・・夢の中へ。5月も戸外での活動を楽しみながら、元気に過ごしていきたいと思います。



すみれ組

継続児12名、新入所児2名の14名でスタートしました。少しずつ保育者に慣れ、目が合うと笑ってくれたり、おもちゃを渡してくれたりするようになりました。朝、お家の方と離れる時に泣いてしまうこともありますが、日中は笑顔で過ごせています。

外が大好きな子が多いので、天気の良い日は、お散歩や所庭で楽しく遊べるようにしていきたいです。

【←小学校の体育館までお散歩】

ゆり組



新しいクラスになったばかりの頃は、“あれ？いつもと違う！”と泣いてしまうことがありましたが、少しずつ新しい環境や保育者に慣れ、笑顔で過ごせるようになっていきます。

今年は早めに桜の花が咲き、バケツにたくさん花びらを集めると、喜んでバケツに手を入れたり、花びらをまいたりして楽しみました。また、すべり台や砂場など、色々なものに興味津々！！のゆり組さん。初めはすべり台がうまく滑れなかったのですが、少しずつ安定して滑れるようになってきました。砂場遊びも大好きで、スコップや器を持ち、楽しんでます。最近では、アリやダンゴムシなどにも興味を持ち始めていますので、機会を見つけて触れていきたいと思います。



【↑桜の花びらきれいだね～】

ひまわり組

新しいクラスの雰囲気にも少しずつ慣れてきて、明るい表情が見られるようになってきました。天気の良い日は、戸外に出て大好きなダンゴ虫やあり探しに夢中になっています。「むし！むし」「だんご！」「あり～」とおしゃべりをたくさんしています。ある日、突然!!子どもの目の前にてんとう虫が現れました。「わあ～てんとう虫だよ！」と話す、サッとてんとう虫をつまんだR君、ダンゴ虫をつまむように指でコロコロしていました。(涙)「キャーッ！やめて～」と声を掛けると、『なんで？』と言う顔をしていました。(笑)

その後、少し目を回したてんとう虫は、無事に空へ飛んでいきました。((めでたし!めでたし!))

【カブトムシの幼虫に釘付け→】



さくら組

さくら組で過ごして1か月。スタートダッシュを頑張り過ぎて体調を崩してしまったり、疲れてしまったりする子が多かったのですが、ようやく落ち着いて生活できるようになってきたかな？と思います。春の気持ちの良い気候の中、外遊びの時間を多くとるようにしています。空に高く上がる鯉のぼりを見たり、アリやダンゴムシなどを観察したり、築山を転がったり、固定遊具に挑戦したり、一人一人がのびのびと好きな遊びを楽しんでいます。友達が捕まえたダンゴムシを「見せて～」とのぞきこんだり、転んでしまった友達がいると「だいじょうぶ？」と近くにいた子ども達が集まって心配したり、子ども達同士、自然にかかり合っている姿も見られます。



【↑満開の桜の下で、パチリ】

これから一年間保育者や友達とかかわり合いながら、心も身体も大きく成長していく子ども達を見守っていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

家庭生活ポイント「生活リズム」「あいさつ」「読書」…より

絵本が拓く子どもの心の育ち

子どもは、乳幼児期に自分と密につながる大人（親や保育者）と楽しく質の高いやりとりを持続的に経験するなかで、多様な心の力を徐々に身につけていきます。子どもが大人と確かにつながり、豊かな相互作用をもつうえで、とても重要な役割を果たし得るのが絵本です。子どもと大人が共に同じ絵本に視線を向け、その絵本に描かれていることを共通のトピックにして感情やことばのやりとりをするとき、それが子どもの心を育む重要な機会となります。こうした子どもが他者と同じものを同時に見て、互いに気持ちを通わせる現象は、生後9か月くらいから見られます。

小さな子どもが大人に抱っこされそのひざの上に乗って、絵本の読み聞かせをされているシーンを思い浮かべてみましょう。子どもは、読み聞かせに耳を傾けながら、ときどき、大人の声の調子が変わることにも気づくものと思われます。子どもはその気づきのタイミングで、自分をひざの上に抱えてくれている大人の顔を、振り返ってのぞき込むようなことも少なからずあるはずで、そのときの大人の視線や表情から、絵本でおきていることが登場するキャラクターにとってよいこと、安心できること、逆によくないこと、危ないことであることを知ることになります。こうした視線と表情を手がかりにした人の気持ちの読み取りや、それを通してものの意味や価値を推測することを実に効果的に学習しているのです。



絵本の読み聞かせは、ことばにしても知識にしても意味や価値にしても、子どもにとってとても大切な学びの機会が実に濃厚な形で含まれています。子どもは大人とやりとりしながら、自分の頭の中にあれやこれやと想像を無限大にふくらませるのです。これもまた、子どもの心の成長に欠かせない絵本の魅力といえます。

（参考：保育の友2023年5月号）